

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況の分析	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合			
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の表現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えていますか。	①学校からの各種たよりやホームページで情報発信を行い、80%以上から肯定的な評価を得ている。	渉外部	①ホームページや校門脇の掲示板、町内の回覧板を利用し、学校行事や教育活動の様子がわかるようにする。	B	A	A	<p>缶やペットボトルについて、回覧板で地域に発信してもよいのではないか、やっていることが伝わればよい。学校は閉鎖的になりがちである。ここで、こういうことをやっている、分かってもらえる。いつでも置いてもらえる場所を作るとよいのではないか。外部の人に来てもらうことがあってよいのではないかな。</p> <p>缶とペットボトルが足りないなら周知したらどうか。缶を入れるところを知らない保護者もいる。通知がいつもはあった気がする。</p> <p>はるな祭の動画を図書室前のモニターで拝見した。とても素晴らしかった。先生方のご苦労を感じることができたのと同時に、児童生徒の皆の生き生きとした様子を感じることができた。この動画をステージ発表の前に映し出すことで、普段の授業の様子を参観してくれた人達に披露することができ、体育館にいる人たちと共通認識をもつことができると思う。ステージ発表が苦手な生徒さんや練習練習に追われない日々になるのではと思う。モニターは入口におくことで大勢の皆の目に触れることができ、図書室前ではもったいない。</p>	<p>今後も校門脇の掲示板や町内の回覧板、また学校ホームページを更に充実させて、学校行事や教育活動の様子を分かりやすく提示、発信していく。</p>
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	②保護者、地域、関係機関と連携して、児童生徒一人一人の実態に応じた個別の教育支援計画を策定し、その実践に努めていると保護者等の80%以上から肯定的な評価を得ている。	教務部	①面談や連絡ノート、個別の教育支援計画に基づいたケース会議等での情報交換や検討を通じて、一人一人の児童生徒の実態に応じた教育支援目標、具体的支援を策定する。その後、実践したことを保護者等と情報交換を行い、支援を継続したり、付け加えたりしながら、実践を積み重ねていく。	B	A	A	<p>学校と保護者が連携して一人一人の実態に応じた教育支援計画を作成し、その実践に努めているかについて、およそ97%の保護者から肯定的な評価をいただくことができた。</p>	<p>子供たちはたくさんいるのにPTA行事に参加が少ない。個々は生活の困り感があつて、個別には話を聞くこともあるが、PTA行事に参加してもらえない。先輩の母の言葉はためになることもある。また、集まって話すことで、救われることもあるので、先生方がPTA行事をまず知って、先生方からも子供や家族のために参加を勧めしてほしい。小学部でPTA会長が誰かわからない人もいた。困っている人を救いたいのので、ぜひ参加を勧めたいと思う。</p> <p>地域の方々が訪れて何かを行うとか、地域の人に学校に来てもらう機会があると周知が広がると思う。文化祭以外でも、作業製品を販売している学校がある。</p>
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	③地域の特別支援を要する乳幼児・小中学校等の児童生徒の支援を年間のべ120名以上実施する。	地域支援部	①関係する機関と連携しながら、訪問相談や電話相談、メール相談、来校による発達相談を実施し、継続的な支援を行う。	B	B	B	<p>本校が特別支援に関するセンター的な役割を担っていることを、約7割の教職員が意識することができた。地域の園や学校への支援についても、知っている保護者が多かった。</p>	<p>1月末現在の支援はのべ137名、授業研究会の指導講評が1件であった。発達相談には2名が継続して来校している。教職員全体で協力しながら進めていきたい。</p>
	④特別支援教育への理解を促すため、地域の保育園、幼稚園、こども園、小中学校等を対象とした学校公開を年間2回以上実施する。	地域支援部	①学校公開日を設定し、説明会や授業参観、個別相談等を実施する。	B	B	B	<p>学校参観や学校公開については、約70%の教職員が協力して業務を行えたと回答している。直接的な役割がなかった教職員にも、授業公開を通し、本校の取り組みを伝える機会を提供していただくことができた。保護者も約9割弱が特別支援教育に関する情報提供を行っていることについて知っているという回答している。</p>	<p>教職員のアンケートでは、「該当なし」と回答した教職員が2割ほど見られた。昨年度よりも割合には減少が見られたが、引き続き教職員がいろいろな場面で関わり、役割を果たしていることについて、周知できたらよい。</p>	

<p>III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。</p>	<p>4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。</p>	<p>⑤個々の児童生徒について、個別の指導計画の目標を設定する。学年会や学習グループ等の会議で、目標達成のための具体的な指導方法を精選したり、指導の評価を行ったりする中で、指導の改善や見直しをする機会を年間で3回以上設けている。</p>	<p>学習指導部</p>	<p>①個別の指導計画の目標を達成するために、学年会や学習グループ等の会議で一人一人に適した指導内容や指導方法を検討するとともに、目標や手だての見直しをする機会を設ける。</p>	<p>B</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>学年会や学習グループの会議で、個別の指導計画の内容を検討する機会を持つことができたといった肯定的な回答を約8割の教職員から得ることができた。保護者の回答を見ても、約9割の保護者から肯定的な回答を得ることができた。</p>	<p>小学部のダンスの映像は、子供達から見たら逆になるのではないかと。 「はるな祭」での小学部の発表は、無理をせず、日常のお子さんの能力を出して取り組んだ様子だった。 体育館で小学部の児童の動作や、活動の様子や教員の指導を見て、児童と指導者が一体となって遊戯、楽器演奏等、練習の成果が出ており児童が伸び伸びと取り組んでいる姿を見て感動した。 校長、教頭先生、教員の皆様の日頃の指導で児童生徒も順調に励んでいると感じた。高等部のステージ発表を楽しみ参観させていただきました。高等部全生徒参加の「ソーラン節」は圧巻だった。 グループ毎の発表について、生徒さんが大勢いらつやつやだったこともあって、発表時間が長かったように思います。待ちきれない生徒さんや見学している小・中学部の皆が「待てない」部分があったのではと思う。生徒の皆は自身の発表をみることができず、ステージ発表を行うことで疲弊してしまったのではとの印象だった。 午前中は販売、午後はステージ発表で忙しかつたのではないかと。</p>	<p>個別の指導計画を活用し、学習グループや学級・学年の教員だけでなく、各部の教職員で児童生徒の実態や指導方法等を共有し、相互理解を図ることで、より一層のきめ細やかな指導に努めていく。</p>
<p>5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。</p>	<p>⑥ねらいの明確な授業実践を行い、年間指導計画に掲げた目標の達成率が75%以上である。</p>	<p>⑥ねらいの明確な授業実践を行い、年間指導計画に掲げた目標の達成率が75%以上である。</p>	<p>学習指導部</p>	<p>①毎学期2回以上、個別の指導計画の目標達成度を確認し、年間指導計画の目標達成度に照らし合わせて、達成率を確認する機会を設ける。</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>多くの教職員から肯定的な回答を得ることができた一方で、目標達成度の確認や指導方法の見直しを行う機会を十分に確保できなかったといった回答も見られた。およそ9割の保護者から、肯定的な回答を得ることができた。</p>	<p>文字で目標を書いているが、どんな大人になりたいか、イメージが難しいのではないかと。例えば、芸能人など具体的な職業を示すことが、どんな大人にはいるのではないかと。全体的にさっぱりしていると感じた。昨年度とは雰囲気を変えられたのかと思った。いろいろなところに文字が多い。 図画工作、美術作品については、発達段階に応じて高度な作品になっていく様子がよく見えた。中学部の作品の中には素晴らしいものがあり驚いた。それぞれ丁寧に作品に取り組んでいる様子を感じた。 学校校舎内でも児童生徒がきちんと挨拶してくれた。</p>	<p>個別の指導計画の目標達成度や指導方法の見直し等を行うための具体的な方法を提案するとともに、ICTを効果的に活用することで教職員間の情報共有を図り、指導内容の確実な定着を図る授業実践に努めていく。</p>
<p>6 児童生徒の発達段階や生活年齢、ニーズに応じた授業実践や寄宿舎生活を送るための研修が行われていますか。</p>	<p>⑦年間を通した研修に対し、80%以上から肯定的な評価を得ている。</p>	<p>⑦年間を通した研修に対し、80%以上から肯定的な評価を得ている。</p>	<p>研修部</p>	<p>①研修回数や内容を精選するとともに、研修の目的を共通理解することで、効率的かつ効果的に研修が実施できるようにする。 ②学部を縦割りにしたグループを編成し、昨年度までの研修（ICTを活用した授業実践）などの中で作成したICT教材を、学校全体で共有し活用するための仕組みづくりに関する研修を実施する。 ③寄宿舎では、指導員にアンケートを取り、日々の業務の中から必要となる項目を厳選して、研修を実施する。</p>	<p>B</p>	<p>A</p>	<p>A</p>	<p>今年度のグループ研修は、各教諭が作成したICT教材を、学校全体で共有するための仕組み（教材BOX）づくりを行い、82%の肯定的な評価を得た。各教科・領域で、8つのグループを作成し、グループ内で役割分担をすることで、職員全体で取り組むことができた。寄宿舎では、実情に合う研修を実施するために、それぞれの指導員にアンケートを取り、すぐに業務に生かせる研修を行うことができた。</p>	<p>目標を持って活動をされているところが素晴らしい学校だと思ふ。 「一人のできる状況づくり」について、そのとおりだと思ふ。どういう状況を確認しているのか。一人のできた喜びはあると思ふ、一人を大事にしているのは素晴らしいが、具体的にどのようにしているのかを知りたい。</p>	<p>多くの教職員が日々の業務に生かせる研修を実施するために、今まで積み重ねてきた研修を生かしつつ、職員のニーズを捉えながら、来年度の研修を設定する。特に、ICT教材については、学校全体の財産として共有・活用できる運用方法を検討・提案していく。</p>
<p>7 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。</p>	<p>⑧児童生徒一人一人の健康上の配慮や対応について、保護者の90%以上から理解を得ている。</p>	<p>⑧児童生徒一人一人の健康上の配慮や対応について、保護者の90%以上から理解を得ている。</p>	<p>保健安全部</p>	<p>①児童生徒の健康状態について、日頃から担任・保護者間で情報交換を密にし、連携して基本的な生活習慣の確立を目指す。 ②定期健康診断、学校保健委員会、日常的な校医からの指導助言を日々の児童生徒への指導や対応に生かす。 ③ホームページや朝会連絡、連絡帳や電話連絡等で、感染症予防や健康に関する情報提供を行い、保護者と相互に情報交換が行えるようにする。 ④手洗い・手指消毒・適切なマスクの使用・うがいなどを習慣化し、検温・健康観察・換気・消毒などを徹底して感染拡大の予防に努める。 ⑤食物アレルギーの対応について学校全体で組織的に取り組む。</p>	<p>B</p>	<p>C</p>	<p>B</p>	<p>職員間では感染情報や対策を共有し、保護者に対しては保健便り等により感染症対策を周知してきたため、コロナやインフルエンザの大きな集団感染を引き起こすこと無く過ごすことができた。しかし、今回、保護者からの理解が86.6%という結果だったため、感染症情報の提供について検討していきたい。</p>	<p>今後基本的な感染症対策を続け、感染症拡大の予防に努める。日常生活の指導等を通じて、児童生徒自身の健康を守る意識作りを継続指導していく。保護者の要望に答えられるよう、感染症情報については、個人情報に配慮すると共に、感染状況に応じながら適切に判断し、伝えられる範囲で発信するようしていく。</p>	<p>今後基本的な感染症対策を続け、感染症拡大の予防に努める。日常生活の指導等を通じて、児童生徒自身の健康を守る意識作りを継続指導していく。保護者の要望に答えられるよう、感染症情報については、個人情報に配慮すると共に、感染状況に応じながら適切に判断し、伝えられる範囲で発信するようしていく。</p>

IV 健康や安全の確保に努めていますか。	8 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	⑨避難訓練を年5回以上実施し、災害時の対応について、保護者と教職員双方の80%が満足している。	保健安全部	①危機管理マニュアルを職員全体に周知する。 ②避難訓練の様子を学年通信や連絡帳などで保護者に知らせるようにする。	B	B	B	年度初めの職員会議で危機管理マニュアルを職員全体に周知した。マニュアルについて教職員から91.2%が肯定的な評価であったが、そのうちの66%は「だいたいあてはまる」であった。周知の方法や見直しについて改善していきたい。 避難訓練の様子は通信や連絡帳の他にホームページをおして保護者に知らせた。保護者からの評価で91.5%が避難訓練の様子を知ることができるといった結果であった。		危機管理マニュアルについては、緊急時に備えて全職員が保管場所や内容を理解できるように改善していきたい。今年度は保健関係のマニュアルと災害等のマニュアルが別であったが、来年度からは1つにまとめ、有事の際に焦ることのないような体制を整えていきたい。
		⑩危機対応マニュアルを教職員が十分周知し、教職員・保護者双方から80%以上の満足を得ている。	生徒指導部	①教職員は来校者証着用の確認を行うとともに挨拶や声かけを励行し、来校者のチェックを習慣化することで、学校安全に努める。	B	B	B	危機意識を持つための取り組み(来校者証着用の確認や挨拶、声かけの励行)については、約8割の教職員が肯定的な回答をしており、約8割の保護者からも理解を得ることができた。		危機対応マニュアルについては不審者対応避難訓練実施時に確認したが、訓練時だけでなく、必要に応じて点検・見直しを随時実施する。
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	9 キャリア教育の視点から、指導内容を整理して系統的な指導を行っていますか。	⑪キャリア教育全体計画を基に、児童生徒一人一人のキャリア発達に応じた支援を職員の80%以上が意識して日々の実践を行っている。	進路指導部	①キャリア教育について周知をし、共通理解を深める。 ②卒業までに身につけたい力を共有し、系統的な指導を行えるようにする。	B	B	B	約70%の職員がキャリア教育の視点をもって計画的な指導を行っている。研修等の機会を通じて、高等部での教育や卒業後の進路先について情報を発信していくことで、より意識が深まると考えられる。	幅広い子供達に工夫して行っている。キャリア教育と言われているが、経験しないと分からないので、いろいろな経験をさせて欲しい。できれば、思いつかないことを経験させてもらえたらいい。 赤城自然園やスカイランドパークなど、売り場を考えていることだが、来園者は荷物を増やしたくないと考えているのかも知れない。外国の方に気に入るようなものも作るとヒットするかもしれない。	職員向けの情報発信や研修会について内容や実施方法について検討する。
	10 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	⑫進路先、支援機関等の関係機関との情報交換を年間5回以上実施、70パーセント以上の保護者が参加する。	進路指導部	①進路先訪問、現場実習巡回指導、進路ガイダンス等、情報交換の機会を多く設定する。 ②進路だよりの配付や、HPへの掲載により周知を図る。	A	A	A	現場実習等、80%以上の保護者に参加していただいた。今後も保護者の方の理解をいただき、多くの方に参加していただけるよう努めていきたい。		進路ガイダンスについては、参加者の少なさや固定化が目立つ。より多くの方に参加していただこう工夫していきたい。
VI 自立に向けた生活指導・支援を行っていますか。	11 寄宿舎指導員が保護者や教職員と連携を図りながら、寄宿舎生が安心・安全な寄宿舎生活を送れるよう、個に応じた対応をしていますか。	⑬連絡・報告・相談を綿密に行い連携に努めていると、保護者や教職員の90%以上から評価を得ている。	寮務部	①「寄宿舎生活の様子」について作成・修正し、寄宿舎生の実態について保護者や教職員と共通理解を図り、連携しながら個々に応じた指導を行う。 ②寄宿舎生活の様子や支援方針を伝えるため、棟だよりを毎月発行する、寄宿舎参観を開催するなどし、必要に応じて個別面談を行う。 ③それぞれの舎生の実態に応じて、柔軟な受け入れ体制をとる。 ④舎生の体調が変化した場合に備え、職員の対応を記した手引きを準備する。また、詳しい動きについては職員間で共通理解を図っておく。	B	A	A	「寄宿舎生活の様子」を作成し、実態に応じて加筆、修正を行い、より詳細な実態把握を行えるよう努めた。また、舎生の体調変化について気になる点があればすぐに同僚や主任に報告、相談し、手引きに沿った対応と情報共有をすることができた。そういった諸々の対応の結果、90%以上の保護者、職員から理解を得ていた。		保護者、教職員との情報交換についてより一層の努力をし、児童・生徒の実態に応じたかわり、支援の実現を目指す。また、手引き等の資料は定期的に見直し、その時々状況に応じた対応ができるように努める。
VII あたかな環境づくりを行っていますか。	12 誰に対しても気持ちのよい対応を行っていますか。	⑭気持ちの良い対応を行っている、保護者や職員の80%以上が感じている。	事務部	①電話の相手方や受付・事務室への来校者を待たせないよう、職員間で情報共有を行うと共に、誰に対しても公平で誠実な応対を実践するよう心掛けていく。	A	A	A	日々の行事予定を確認する等のほか、職員間で来校者予定や電話の発信情報共有し、丁寧・迅速な対応を実施することができた。また、毎日の清掃等で環境美化も概ね行うことができていたので、総合評価をAとした。		来年度、ハード面、ソフト面共にバージョンアップできるように、引き続き丁寧な情報共有を実施していく。手続きが遅い等のご意見をいただいたので、待たせない工夫はもちろん、そう感じさせない応対も大事だと考え、行動していきたい。